乃木夫人像 復元へ一歩

募金 目標の半分超す

11月除幕へ奉賛会方針

収支や活動予定などを報告する乃木静子夫人奉賛会＝鹿児島市新屋敷町

陸軍大将・乃木希典の妻、乃木静子の銅像建立を目指す「乃木静子夫人奉賛会」（平瀬葉子会長）総会が14日、鹿児島市新屋敷町であった。11月27日の除幕式へ向け、募金活動などに取り組む活動方針を確認した。

静子の銅像は1919（大正8）年、甲突川沿いの誕生地（新屋敷町）に建立されたが、太平洋戦争末期に軍事資材として供出され、台座のみが残っている。自治会関係者や有志が2014年、銅像復元のための奉賛会を設立。目標募金額1千万円のうち約550万円が集まった。

台座だけが残る乃木静子像があった場所

平瀬会長は「みなさんの協力をもらいながら、建立の日までがんばりたい」とあいさつ。会では、新しい台座には、希典のゆかりの地である山口県産の徳山石を使うことなどが報告された。

静子は1859（安政6）年、塩屋村（現新屋敷町）で生まれ、1912（大正元）年、明治天皇の崩御により夫と共に自刃。良妻賢母で、女性のかがみとされた。平瀬会長は「ひたむきに家を支え、時代を生き抜いた鹿児島の女性の強さを後世に伝えたい」と募金を呼び掛ける。同奉賛会＝0999（226）7457。

（高野寛子）

平成28年5月19日付
南日本新聞（みなみネット）